資料３

「都市型水害に強い千葉県づくり」に向けたビジョン

― 令和8年8月千葉豪雨を踏まえた「３つの新たな視点」とオール千葉県での対策―

ビジョン

短時間で危険状態に変化する都市型水害への対応には、行政のみならず、企業、地域、県民一人ひとりが水害リスクを**「自分ごと」**として捉え、それぞれの立場で備え、行動する社会への転換が必要です。千葉県では、**都市型水害対策における３つの新たな視点**の下で、国・市町村・企業・団体・県民とともに「都市型水害に強い千葉県」をつくります。

都市型水害対策における３つの新たな視点

①「防ぐ」に加えて「備える」「しのぐ」「早く戻す」

②「避難する・させる」から「危険空間に入らない・入らせない」へ

③「市町村ごとの防災」から「流域・交通ネットワーク単位の防災」へ

» それぞれの立場で対策するオール千葉県へ

行政

危険を減らし、広域につなぐ

貯留・排水、危険箇所の可視化、
通行規制、広域情報発信 など

企業・団体

従業員と地域を守る

BCP、耐水化、帰宅抑制、雨水貯留、
一時滞在場所の提供 など

県民一人ひとり

危険を知り、近づかず、備える

危険箇所確認、住宅浸水対策、備蓄、
地域での声かけ など

「防ぐ」に加えて　「備える」「しのぐ」「早く戻す」

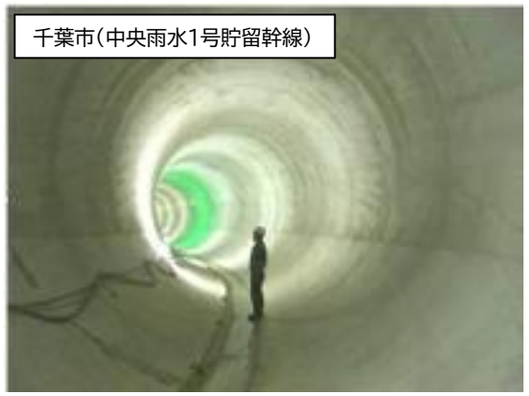
これまで進めてきた取組

○　一宮川では、集中的な河道拡幅・調節池整備等「流域治水」の取組で、今回は浸水被害を大幅に軽減（浸水家屋 4,337戸 → 235戸※）　※流域の暫定値

○　千葉市では、重点地区に雨水貯留幹線や公園地下に雨水貯留槽を整備し、貯留容量を確保してきた

一宮川　河川整備（約3㎞、河道拡幅など）

千葉市（中央雨水1号貯留幹線）



千葉豪雨で明らかになったこと

時間雨量100ミリを超える雨により、道路冠水・家屋浸水・帰宅困難などが同時多発
従来の治水対策では対応しきれない内外水氾濫により影響が長期化

新たな視点 ①

防ぐ ＋ **備える** ＋ **しのぐ** ＋ **早く戻す**

河川・貯留施設などで
被害発生を抑える

雨水を貯める・
浸透させる・
施設・住宅・企業で
受け止める

冠水しても人命・
重要機能を守り
被害を最小限にする

交通・ライフライン・
都市機能を
できるだけ早く回復する

オール千葉県での対策①　「防ぐ」に加えて　「備える」「しのぐ」「早く戻す」

○　被害を段階的に抑える考え方や雨水を一時的に受け止める空間を面的に確保する考え方、広域的な内水・外水対策の検討が重要ではないか

一宮川　河川整備（一宮川第二調節池　40万m3増設など）

行政

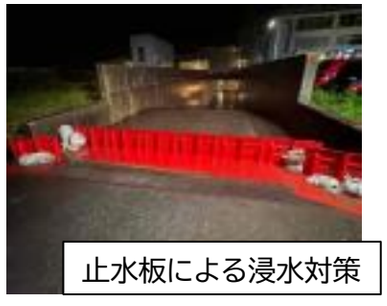
内水・外水対策としての河川整備、下水道整備
洪水調節池、調整池の整備による貯留機能の更なる強化
ハザードマップの見直し、危険箇所の可視化
排水ポンプ車の機動的投入

排水ポンプ車

企業・団体

雨水貯留・浸透施設の整備
災害などの緊急時に、事業への影響を最小限に抑え、重要業務を継続するためのBCP（事業継続計画）を策定
重要施設の耐水化、止水板、非常用電源確保

民間の貯留対策


止水板による浸水対策

県民一人ひとり

ハザードマップの確認（避難所、避難ルート等）、地域での冠水リスク把握や注意喚起
側溝や排水口清掃
災害対応スキル向上のための研修
水・食料、防災用品備蓄
止水板、宅地のかさ上げなどの住宅浸水対策

排水施設の清掃

「避難する・させる」から「危険空間に入らない・入らせない」へ

これまで・今回の取組

○　これまでに帰宅困難者対策として、一時滞在施設の指定を順次拡大

○　千葉県は、8/13 19時より千葉県庁を一時滞在施設として開設し、県有施設で延べ2,710人を受け入れ

○　地域によっては、住民主体で冠水の注意喚起を実施

千葉県内一時滞在施設指定数

41施設（H28）

89施設（R3）

126施設（R8）

順次拡大

千葉豪雨で明らかになったこと

短時間で移動の危険度が上昇。アンダーパスや冠水道路では、
「避難するために動くこと」自体が危険になる場面が生じた。

新たな視点 ②

危険になってから逃げるだけでなく※、
そもそも危険な場所に入らない社会へ

※ 避難を否定するものではなく、適切な避難行動を前提としつつ、急激な冠水時には危険空間への侵入そのものを未然に防ぐ考え方

オール千葉県での対策②　危険空間に入らない・入らせない

○　公共交通が止まった際、安全な場所での一時避難を前提にすべきではないか
○　鉄道事業者や企業・団体と連携し、一時滞在機能を強化すべきではないか
○　冠水注意箇所を自動的に通行止めができる措置、排水ポンプの耐水化、道路冠水履歴の見える化等を進めるべきではないか

行政

アンダーパス等の自動通行止め・冠水道路の早期規制、
ハザードマップの見直し、防災情報の発信

アンダーパスの通行止め

企業・団体

従業員の帰宅抑制
店舗利用者等への一時滞在場所の提供
水・食料・防災備蓄、非常用電源の確保

ハザードマップの公表

県民一人ひとり

危険に近づかない（河川・用水路等）
安全なところから動かない
冠水懸念の場合、車での移動を控える
車で冠水箇所へ侵入しない
行政の被災情報投稿への協力

R8.8.26発表の注意喚起(内閣府等)

一時滞在場所の提供

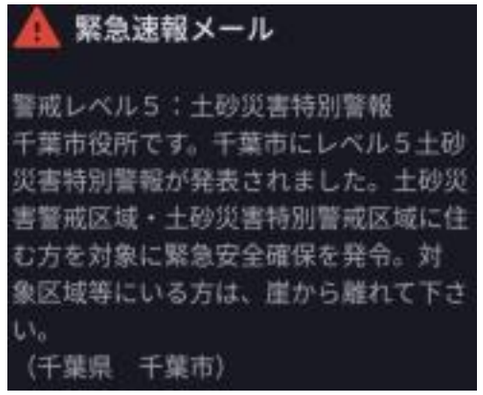
「市町村ごとの防災」から「流域・交通ネットワーク単位の防災」へ

これまで・今回の取組

○　市町村ではエリアメールやＳＮＳを効果的に活用
（提供情報の内容・頻度は市町村ごとに差が見られた）

○　過去災害を受けて設置してきた河川監視カメラにより、
状況をリアルタイムに把握

○　道路上の被災車両対応のため、国・県・市・関係者による
プロジェクトチームで連携して対応



千葉市による発信例

鎌ヶ谷市による発信例

千葉豪雨で明らかになったこと

豪雨による浸水・交通障害・帰宅行動は、行政界を越えて広域的・連鎖的に発生

新たな視点 ③

水、人、交通など、市町村境を越えて
広がる災害に連携して対応

行政区域を越えて、広域的に必要な防災情報提供や災害対応ができるよう、
流域・地域全体で連携して対応します

オール千葉県での対策③　　流域・交通ネットワーク単位の防災

○　自助に資する防災情報が重要であり、防災情報の提供内容や提供方法を改善すべきではないか

行政

複数の市町村をまたぐ広域の情報提供支援、
雨水貯留・排水の広域的な連携、
道路上の被災車両移動対応など災害時対応のナレッジを共有

千葉市モデル

被災車両移動時のナレッジ

企業・団体

流域の一員としての敷地内への雨水貯留・浸透施設
従業員の通勤範囲の情報収集手段の確立

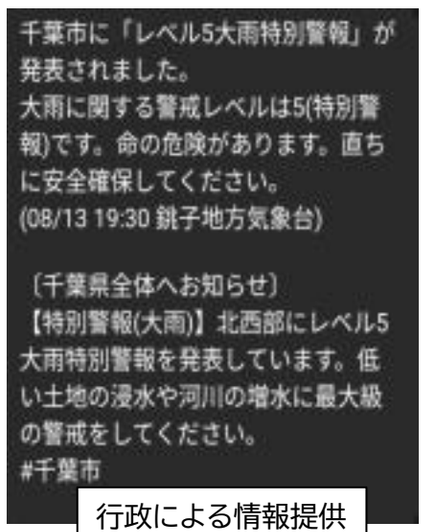
千葉駅の状況

企業による情報提供

県民一人ひとり

住んでいるところに加え、職場や学校など、
行動圏の情報収集手段を確立する
危険箇所を知り、情報で自らを守る

被災車両に対する円滑な対応に関するプロジェクト会議



行政による情報提供
（千葉県公式LINE）

住民の防災力の向上
（避難生活支援リーダー／サポーター研修）

ビジョンの実現に向けて ― 検討会議で論点を議論し、実装へ

ビジョン
県としての方向性
→ **3つの視点**
新たな考え方
→ **論点**
具体策の設計
→ **検討会議**
有識者で議論
→ **実装**
国・市町村・企業・団体・県民と連携

11の論点

内水・外水対策・貯留機能の更なる強化 流域治水の深化	下水道施設対策の充実	アンダーパス・ 道路冠水対策の強化
水没車両対応の円滑化	交通レジリエンスの向上	帰宅困難者対策の向上
防災情報の充実	自助・共助の重要性	医療・福祉機能継続のための 対策の充実
ライフラインの耐水化	マンションの浸水対策	

有識者による「都市型水害に強い千葉県づくり」検討会議で議論を深め、
国・市町村・企業・団体・県民とともに、実現可能な対策から順次具体化・実装します。

※論点等については、今後、市町村等の意見を踏まえて改善予定

1．内水浸水が各地で同時多発的に発生
ハザードマップ上の浸水エリア外での浸水が発生

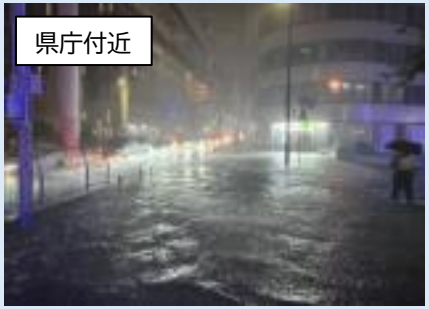
参考資料

●事象

- JR蘇我駅周辺を含む市街地で道路冠水や内水浸水が多発した。同駅周辺では約5,000人の帰宅困難者が発生した。
- 八千代ポンプ場では、浸水想定以上の浸水が発生した。（ハザードマップ0.5m→実測1.1m）
- JR大網駅周辺では、駅前の駐車場、道路、住宅・建物周辺が広範囲に冠水した。

蘇我駅

県庁付近



大網駅

八千代ポンプ場

浸水想定以上の浸水

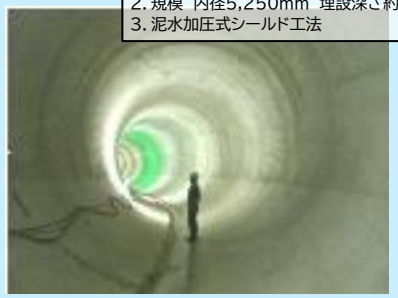
八千代ポンプ場付近のハザードマップ

●主な取組

- 一宮川では、令和元年豪雨を踏まえた緊急的かつ集中的な「流域治水」の取組により、元年とほぼ同規模だった今回の降雨に対し、浸水被害を大幅に軽減した。（浸水家屋 4,337戸→235戸※）
  ※令和8年9月11日12:00時点の流域市町村全体の暫定値であり、確定値ではない。
- 千葉市では、豪雨前から、浸水リスクと都市機能の集積度が高い地区を重点地区に位置付け、中央雨水貯留幹線や、公園地下に雨水貯留槽を整備し、貯留容量が確保されていた。

一宮川　河川整備

千葉市



■千葉市　中央雨水1号貯留幹線
1. 延長約5.1km
2. 規模　内径5,250mm　埋設深さ約30m
3. 泥水加圧式シールド工法

●課題

・50mm/h対応を目標とした市街地一律の下水道整備では、地区ごとの浸水リスクと都市機能の重要度を十分に反映できない。
・従来の治水対策や防災対策のみでは十分に対応しきれない内水・外水の氾濫が発生。

●論点

・被害を段階的に抑える考え方や雨水を一時的に受け止める空間を面的に確保する考え方、広域的な内水・外水対策の検討が重要ではないか
・浸水想定区域外でも、浸水による県民への影響が大きい施設などについては重点的な支援が必要ではないか

⇒内水・外水対策・貯留機能の更なる強化
流域治水の深化

2．下水道施設の浸水やマンホールの損傷等が発生

下水道マンホール206箇所で損傷等が発生

●事象

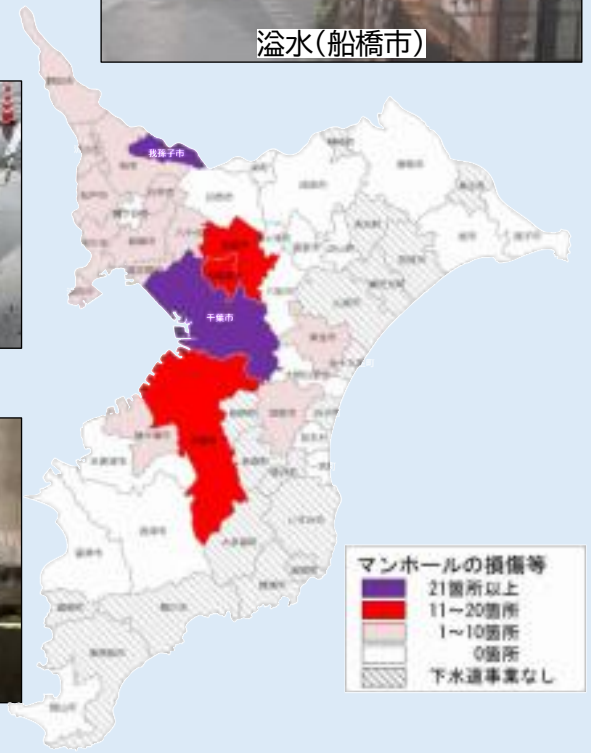
- 下水道施設の浸水。
- 下水道マンホール206箇所で損傷等が発生。

下水道施設の浸水（市原市）

溢水（船橋市）

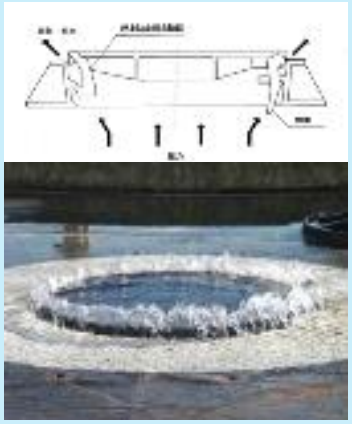
損傷（八千代市）

溢水（我孫子市）

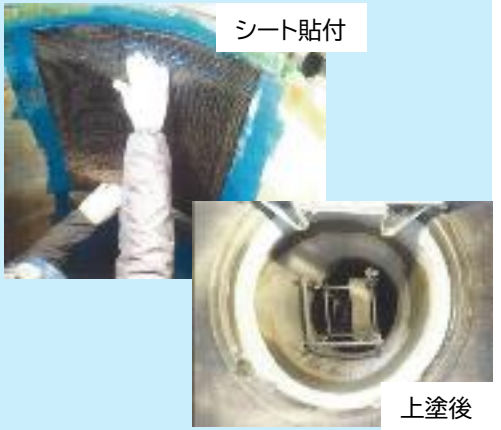


●主な取組

- マンホール蓋の構造検討
  県流域下水道において、圧力開放蓋への更新が完了した732基のマンホールで損傷を回避。
- 下水道施設の健全性確保
  江戸川左岸流域下水道において、炭素繊維シートで補強したマンホール10箇所が損傷を回避。



圧力開放蓋から排水する様子
出典：狭山市HP



炭素繊維シートによる補強状況

●課題

マンホール蓋の浮上・飛散は、道路冠水、交通障害、人身事故のリスクを増大

●論点

豪雨時の下水道管内の状況を想定したマンホール蓋の構造検討や下水道施設の健全性確保が必要ではないか

⇒下水道施設対策等の充実

3．アンダーパスや低地等での道路冠水により、人的被害・車両水没が多数発生

県内95箇所の道路冠水注意箇所のうち、48箇所で冠水が発生

●事象

- 県内95箇所【国管理道路9箇所、県管理道路23箇所、千葉市道14箇所、千葉市を除く市町村管理道路49箇所】の道路冠水注意箇所のうち、48箇所【国管理道路2箇所、県管理道路9箇所、千葉市道13箇所、千葉市を除く市町村管理道路24箇所】で冠水が発生した。
- 千葉駅前地下道、末広地下道、国道16号村田町アンダーパスなどでは車両が水没し、千葉市中央区稲荷町と同区村田町では計2人が死亡した。
- アンダーパスや一般道路など、千葉県内の道路上に被災車両が約3,100台残された。

市原市　五井(五井アンダー)

佐倉市　岩富町

柏市　富里(中原アンダー)

佐倉市　田町

●主な取組

- 千葉市では、水位計、道路情報板、警告灯、エアー式遮断機、ウェブ上の地下道冠水情報システムを組み合わせた対策を導入していた。
- 冠水時に警察と高速道路事業者が連携して、外環道のランプや千葉北インターチェンジへの流入を早期に規制し、規制箇所では被災車両が発生しなかった。

千葉市HPより

千葉市HPより

●課題

急激な水位上昇を伴う冠水に対して道路管理者による迅速な通行止め措置が困難

●論点

冠水対策の実効性を確保するため、自動的に通行止めができる措置、排水ポンプの耐水化、道路冠水履歴の見える化等を進めるべきではないか

⇒アンダーパス・道路冠水対策の強化

4．路上に存置された被災車両による渋滞・事故が発生

最大で約3,100台の被災車両が道路上に発生

●事象

- 8月18日9時時点で、県内の幹線道路等には被災車両が約600台残存していた。内訳は、国管理道路約40台、県管理道路約90台、千葉市管理の幹線道路約200台、千葉市を除く市町村管理道路約270台。
- 千葉市では、豪雨後に道路上に残された被災車両を約2,500台と把握し、このうち通行の支障となった約500台を路肩へ移動した。
- 車両被害は、損害保険大手4社が受け付けた車両保険の請求は、8月25日時点で約1万3,000件に達した。

八千代市　吉橋

八千代市　緑が丘西

茂原市　小林

八千代市　大和田新田

●主な取組

- 千葉市は、直ちに道路外へ撤去できない被災車両の後部に反射テープを三角形に貼り付け、夜間の視認性を高める応急的な追突防止策「千葉市モデル」を実施した。
- 幕張海浜公園等の駐車場を被災車両の一時仮置場として活用し、道路から移動した車両の保管場所を確保した。
- 一部の道の駅において、前面道路が冠水していても、駐車場が冠水しなかったため、一時退避として活用。

千葉市モデル

八街市

●課題

道路上の被災車両は、渋滞や追突事故の原因になり、防犯上の懸念も招くことから、速やかな撤去が必要となるが、現状では市町村ごとの対応力に差が見られる

●論点

被災車両が多数発生した場合の処理方法について、役割分担や手続きをあらかじめ検討し、マニュアルとして共有すべきではないか

⇒水没車両対応の円滑化

5．道路と鉄道の同時被災により広域的な移動が制約

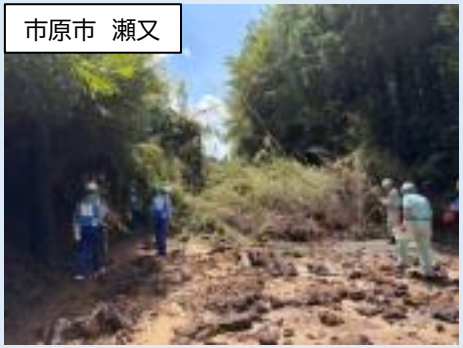
JR外房線と旧千葉外房有料道路が被災で不通に

●事象

- 旧千葉外房有料道路である県道67号生実本納線では、法面崩落や大規模な土砂流出が発生し、約13kmが通行止めとなった。また、大網街道の県道20号等でも通行規制が発生した。
- JR外房線では、8月13日夜から全線で運転を見合わせた。8月18日までに大網駅から本納駅間等で順次運転を再開したものの、土気駅構内や土気駅から大網駅間のトンネル内で、枕木下の砂利が流出するなどの被害があり、誉田駅から大網駅間は8月22日まで運休が続いた。

千葉市 小食土町

市原市 瀬又



千葉市 誉田町

千葉市 越智町

●主な取組

- 千葉・外房間の交通機能が大幅に低下したことから、8月16日に「千葉県災害時交通マネジメント検討会」を設置し、道路と鉄道をまたいだ交通状況の把握と対策調整を行った。
- 災害救助及び救援活動を支援するため、有料道路料金の無料措置を実施した。
- 千葉都市モノレールは、地上の冠水の影響を受けにくい高架・懸垂構造を生かし、JR線や道路交通が機能低下する中でも運行を継続した。

関東地方整備局HPより

千葉市HPより

●課題

並行する道路と鉄道が同時に被災すると、代替経路が機能せず社会活動に著しい影響を招く

●論点

重要ネットワークの多重化や脆弱箇所の強化とともに、交通遮断の際、迅速な代替手段確保・情報周知できる備えが重要ではないか

⇒交通レジリエンスの向上

6．公共交通機関の運転見合わせに伴う帰宅困難者が発生

JR蘇我駅周辺では約5,000人の帰宅困難者が発生

●事象

- 2026年8月13日夕方から夜にかけて、記録的な豪雨が帰宅時間帯と重なり、県内の鉄道、路線バス、高速バス等で運休や大幅な遅延が相次いだ。

- 県有施設（県庁、千葉県文化会館等）が帰宅困難者向けの一時滞在施設として開設され、水、食料、毛布等を配布し、延べ2,710人【県庁 1,454人 企業局庁舎 331人 文化会館 395人 文書館 112人 社会福祉センター 37人 幕張メッセ 372人 印旛合同庁舎 9人】を受け入れた。

帰宅困難者の状況①

千葉駅の状況

帰宅困難者の状況②

蘇我駅の状況

●主な取組

- 千葉県は、8月13日午後7時から千葉県庁を一時滞在施設として開設し、県有施設で延べ2,710人を受け入れた。

- JR東日本や京成電鉄では、大雨による運転見合わせ時に、駅に停車していた列車内で利用者を待機させ、水を配布し、照明や空調を可能な範囲で維持した事例もあった。

帰宅困難者の状況③

帰宅困難者の状況④

●課題

帰宅困難者を特定の駅に集中させないため、駅滞留者情報の迅速な把握と、それに向けた鉄道事業者や地元市町村との連携強化、一時滞在施設に係る開設情報の迅速な発信、雨天時にも対応した備蓄物資の充実などが必要
県民や企業に向けた「一斉帰宅抑制」の発信強化が必要

●論点

・公共交通が止まった際、タクシーや送迎など道路交通に過剰に頼らず、安全な場所での一時避難を前提にすべきではないか
・市町村、民間企業、鉄道事業者と連携し、一時滞在機能を強化すべきではないか

⇒帰宅困難者対策の向上

7．自助に資する適切な防災情報の重要性を再認識

様々な災害関連情報（気象・避難・水位・交通等）が刻一刻と変化する中、必要な情報入手が複雑化

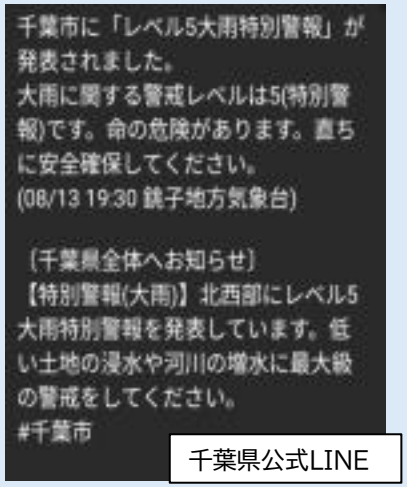
●事象

- 記録的な豪雨により、浸水・道路規制・鉄道・バス等の状況が刻々と変化。千葉県において、新たなレベル5特別警報が連続発表。市原市では、レベル4大雨危険警報を経ずにレベル5大雨特別警報が発表された。
- 様々な災害関連情報（気象情報、自治体の避難情報や避難所開設情報、河川水位、道路交通情報、鉄道運行、停電・断水など）が刻一刻と変化する中、個々人に必要な情報の入手が複雑化した。
- 千葉市及び佐倉市では、豪雨災害時において、情報発信の未実施や誤配信など、防災情報の伝達に関する事案が発生した。

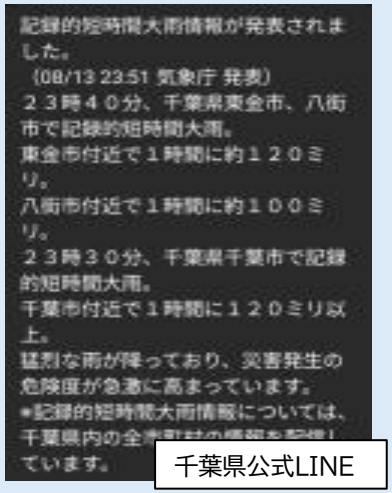
大雨の警戒レベル（移行推移）

	千葉市		佐倉市		市原市	
レベル3	17：44	31分	18：15	21分	16：45	165分
レベル4	18：15	75分	18：36	54分		
レベル5	19：30		19：30		19：30	

【千葉県による情報発信の例】



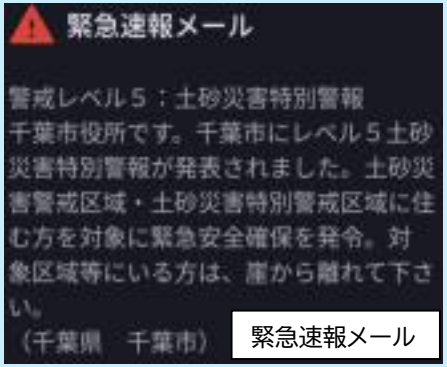
千葉県公式LINE



千葉県公式LINE

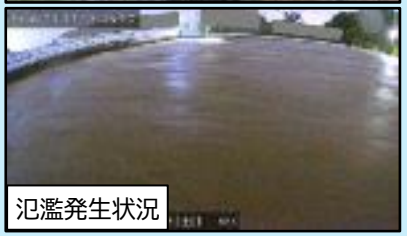
●主な取組

- エリアメール・緊急速報メールにより、事前登録なしで対象地域の端末へ「対象地域、現在の危険、直ちに取る行動」をプッシュ型で周知した。
- 過去災害を踏まえて設置した河川監視カメラにより、今回の豪雨では出水状況や切迫性をリアルタイムに把握でき、住民や事業者の避難判断にも寄与した。



緊急速報メール

平常時状況


氾濫発生状況

●課題

短時間で状況が変化する中、住民や事業者が自ら身を守る正しい行動をとるため、適時・適切な防災情報の提供が必要

●論点

自助に資する防災情報が重要であり、防災情報の提供内容や提供方法を改善すべきではないか

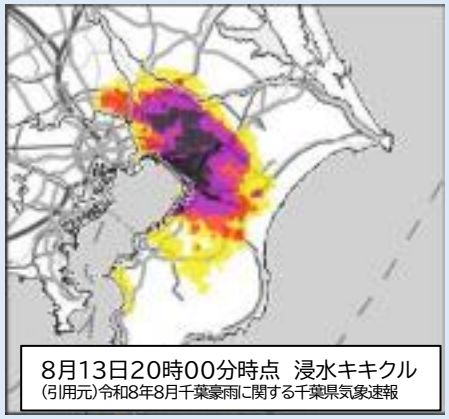
⇒防災情報の充実

8．水害に関する自助・共助の必要性を再認識

短時間で危険度が上昇し、公助を待つ前の自己判断が求められた

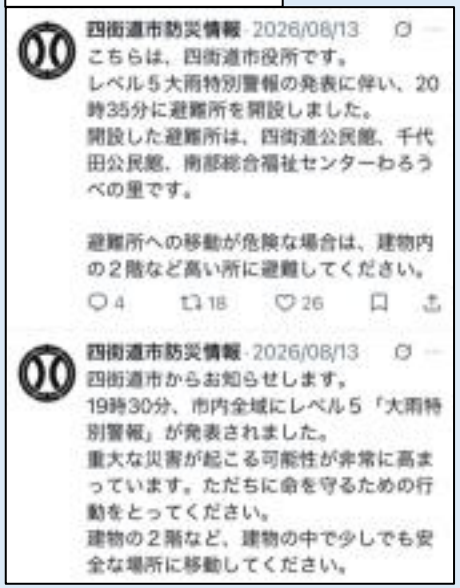
●事象

- 県内各地で1時間に100ミリを超える猛烈な雨が相次ぎ、雨の降り始めから短時間で道路冠水や住宅浸水が発生した。
- 千葉市・佐倉市などでは18時から19時台に雨のピークを迎え、警戒レベル5の情報が順次発表された時点では、すでに屋外移動が危険な状況となっていた。
- 行政による避難誘導や救助が全地点へ直ちに到達することは難しく、その場の浸水状況に応じて、住民や事業者自身が移動を中止する、建物の上階へ避難する、近隣住民同士で安否を確認するといった即時判断が必要となった。



8月13日20時00分時点　浸水キキクル
(引用元)令和8年8月千葉豪雨に関する千葉県気象速報

(引用元)四街道市防災情報「X」



●主な取組

- 佐倉市の一部地域では、町内会住民が地域所有のボートを活用して6人を救助し、豪雨後の復旧作業にも共同で取り組んだ。
- 千葉銀行は、店舗の排水清掃を実施しているほか、被災して臨時休業となった大網支店の駐車場に移動店舗車を配置し、預入れ、引出し、振込み等の業務を継続した。
- 県は、国や市町村と連携して、避難所運営のスキルを習得し、市町村職員や被災者と共に避難所の生活環境向上に率先して取り組む人材を育成する 「避難生活支援リーダー／サポーター研修」を実施している。

避難生活支援リーダー／サポーター研修①

避難生活支援リーダー／サポーター研修②

●課題

住民や事業者が自らリスクを察知し、適切な避難行動やリスク回避につなげることが有効

●論点

適切な避難行動や避難生活ができるよう、日頃から自助・共助の意識の向上や事前の備えが必要ではないか

⇒自助・共助の重要性

９．医療機関・社会福祉施設への影響

浸水想定区域内外に立地する医療機関・社会福祉施設に浸水・停電等の被害が発生し、利用者の処遇に影響

●事象

➢浸水想定区域外も含め、８９施設の医療機関と６０４施設の社会福祉施設（9月3日時点）から浸水・停電等の被害が報告された。

➢病院において、地下に雨水が流入し、電気設備が水没、全館停電となり、全診療科の休診、人工透析・検査の休止等により、入院患者約130人の転院が必要となった。

➢病院において、地下の排水処理設備等が浸水・故障し、手術や検査に必要な医療機材の洗浄・滅菌が不可能になったため、予定していた手術等の大幅な制限が必要となった。

➢高齢者施設において、雨水の浸入により天井の一部が崩落し、供用スペースや居室が浸水したため、５４名の入所者（９月７日時点）の他施設への移動が必要となった。

➢高齢者施設において、浸水により浄化槽、受水槽、エレベーター等が故障・使用不可となったため、施設機能の完全復旧まで長期間を要する見込みとなった。

病院の浸水状況

福祉施設の浸水状況

●主な取組

➢被災した医療機関に対し、平時から訓練を行ってきたＤＭＡＴ（災害派遣医療チーム）を現地に派遣し、人工透析など継続的な医療を必要とする入院患者を院外搬送し、患者の安全を確保した。

➢被災した高齢者施設に対し、県内で初めてＤＷＡＴ（災害派遣福祉チーム）を派遣し、利用者の状態把握や生活支援等を実施することで、二次被害を防止しつつ、安定した日常生活への移行を支援した。

➢空調設備に不具合が生じた高齢者施設に対し、近隣施設が連携し、各々が所有するスポットクーラーを被災した施設に提供し、入居者の生活環境を確保した。

➢事前の備えとして、止水板を病院の地下スロープ上部と地下室入口前に二重に設置し、地下の受変電設備への浸水を防いだ事例があった。

●課題

医療機関・社会福祉施設における重要設備（電気・給排水・空調など）への浸水は、利用者（特に入院患者・施設入所者）の生命や健康の維持に重大な影響を及ぼす

●論点

医療機関・社会福祉施設の利用者の安全確保のため、

・ 浸水想定区域外も含め、重要設備を守る止水板等の設置や設備機器の高所移設等の対策

・入院患者等の移送先や移送車両・人員の確保、必要物資の調達、応援職員の派遣など、地域の相互連携体制の強化

が必要ではないか

⇒医療・福祉機能継続のための対策の充実

１０．水道等ライフライン施設への影響

千葉市緑区の道路被災等により約100戸が断水、蘇我変電所の停止等により約25,000戸が停電

●事象

- 電力では、8月14日午前8時時点で県内約24,950軒が停電し、このうち約15,890軒が千葉市中央区の蘇我変電所の浸水によるものだった。
- 都市ガスでは、ガスの供給圧力が異常に上昇し、八千代市と佐倉市の一部、約12,891戸への供給を一時停止した。
- 上水道では、千葉市緑区で一時最大約100戸の断水が発生した。
- 八千代ポンプ場（汚水）が浸水し一部機能停止（下水道使用者に自粛呼びかけ）。

東京電力パワーグリッドの発表より

千葉市緑区

下水道施設の浸水

●主な取組

- 都市ガスとしては、日本ガス協会は災害時の相互応援体制を発動し、都市ガス事業者6者が復旧に参加し、2日間で延べ約1,350人を投入し、供給停止から丸2日で復旧した。
- 千葉市緑区小食土町では、千葉市は町内会館前に給水車を配置するだけでなく、水を各家庭へ直接届けるプッシュ型支援を実施した。
- 排水機場所在地域で一時停電が発生したが、東京電力との災害協定に基づいて発電車が当日中に手配され、電源を確保した。

●課題

水道や電気といったライフラインの機能停止は社会的に大きな影響を生じるとともに復旧活動にも影響

●論点

想定を超える浸水等による被害を防ぐため、浸水被害の予見、施設の浸水・排水対策等の検討が必要ではないか

⇒ライフラインの耐水化

１１．マンションの地下設備浸水が生活機能に影響

浸水対策ガイドライン策定前に建設されたマンションで停電・断水が多発、影響が長期化

●事象

- マンションの地下階等に設置された電気設備等が浸水し、建物単位で停電や断水が発生した。電力会社側の送配電設備が復旧しても、マンションが所有・管理する受変電設備が使用できないため、建物内の停電が発生した。

- 県内のマンションでは、千葉市のほか6市で、およそ30棟（9月2日時点）で浸水による停電・断水が発生した。

停電マンションのイメージ

浸水した電気室のイメージ

●主な取組

➢県及び市町村が連携し、被災によりトイレが使用できない集合住宅等に、トイレカーやトイレトレーラーを派遣した。

➢千葉市が、停電・断水が長期化したマンション住民に対して、千葉市子ども交流館に専用避難所を開設した。

➢松戸市と千葉県企業局が連携し、断水が発生した松戸市内のマンションに対して、給水車による応急給水を実施した。

トイレカー

専用避難所の開設（千葉市HPより）

●課題

マンションの地下・低層部の受変電設備や給水設備が浸水すると、停電・断水・エレベータ停止などで継続居住が困難になる

●論点

マンションへの浸水対策や早期復旧に向けた代替設備の確保と復旧に係る体制整備の検討が必要ではないか

⇒マンションの浸水対策

令和８年８月千葉豪雨の経過

日付	時間	出来事
8月13日	16時27分	レベル４大雨危険警報（市川市・松戸市、以後35市町まで増加）
		千葉県災害即応体制設置
	16時29分	東京外環自動車道　三郷南IC～高谷JCT　内外回り　通行止め
	17時02分	レベル４土砂災害危険警報（柏市・市原市・流山市・我孫子市・袖ケ浦市、以後45市町まで増加）
	18時48分	千葉市中央区で観測史上最大となる1時間降水量115.0ミリを観測
	19時00分	帰宅困難者向け一時滞在施設として県庁を開放（順次開放し、のべ県有10施設、千葉市5施設ほか）
	19時01分	千葉東金道路（千葉東JCT～高田IC）上下線　通行止め（以後、全線に拡大）
	19時30分	レベル５大雨特別警報発令（千葉市・市川市・船橋市・松戸市・佐倉市・習志野市・柏市・市原市・八千代市・鎌ケ谷市・四街道市・白井市、以後22市町まで増加）
		千葉県災害対策本部設置
	20時10分	首都圏中央連絡自動車道（木更津東IC ～ 木更津JCT）内外回り　通行止め
	20時30分	第１回千葉県災害対策本部会議
	20時36分	首都圏中央連絡自動車道（茂原長南IC ～ 木更津東IC）内外回り　通行止め
	21時14分	首都圏中央連絡自動車道（東金JCT ～ 茂原長南IC）内外回り　通行止め
	21時30分	死者1人（市川市）を発表。
		首都圏中央連絡自動車道（松尾横芝IC ～ 東金JCT）内外回り　通行止め
	21時33分	千葉県の流域下水道　八千代ポンプ場　浸水によりポンプ一部停止。 （以降、千葉市などに下水道の使用自粛を要請、仮復旧、自粛要請解除、本復旧）
	21時50分	首相官邸危機管理センターの「官邸連絡室」に格上げ
	21時55分	レベル５土砂災害特別警報発令（千葉市・市原市、以後6市まで増加）
	22時00分	東京電力管内　停電戸数約46,980戸
	22時45分	災害救助法の適用（18市、以後21市4町まで増加）
	23時20分	レベル５氾濫発生情報発令（村田川）
8月14日	3時40分	新たに死者1人（佐倉市）を発表 ※　計2人（市川市1人、佐倉市1人）
	5時00分	自衛隊への災害派遣要請 ※　蘇我駅に滞留した帰宅困難者の一時滞在施設（県文化会館）へ輸送支援
	5時15分	レベル５大雨特別警報解除（全22市町）
		レベル５土砂災害特別警報解除（全6市）
	6時00分	旧千葉外房有料道路（生実本納線）（千葉市緑区辺田町～茂原市大沢）全面通行止め
	7時30分	新たに死者2人（佐倉市1人、八千代市1人）を発表 ※　計4人（市川市1人、佐倉市2人、八千代市1人）
	8時00分	第２回千葉県災害対策本部会議を開催 （死者4人　住家被害　全壊:調査中　半壊1棟　一部損壊:調査中　床上45棟　床下39棟）
		緊急車両の通行確保のため、災害対策基本法に基づく放置車両移動の発表 災害対策基本法第７６条の６第１項による区間指定（千葉、葛南、柏、印旛、山武、長生、市原）
	9時30分	首都圏中央連絡自動車道（茂原長南IC～木更津JCT）内外回り　規制解除
	14時00分	災害対策基本法第７６条の６第１項による追加区間指定（東葛飾、君津）
	17時00分	第３回千葉県災害対策本部会議 （死者5人　住家被害　全壊1棟　半壊4棟　一部損壊3棟　床上83棟　床下87棟）
		新たに死者1人（千葉市）を発表 ※　計5人（千葉市1人、市川市1人、佐倉市2人、八千代市1人）
		気象庁が「令和8年8月千葉豪雨」と命名
		国土交通省　排水ポンプ車による排水支援（佐倉市、茂原市などで8月20日まで）
		国土交通省　関東地方整備局　あおぞら号(ヘリコプター)による被害調査（以降、8月20日にも実施）
		緊急安全確保や避難指示をすべて解除

大雨特別警報・危険警報・警報の発表状況

レベル５が発令された22市町	レベル３	レベル４	レベル５
千葉市	17:44	18:15	19:30
市川市	16:09 0:18	16:27	19:30
船橋市	15:40	18:00	19:30
松戸市	14:21	16:27	19:30
茂原市	→	20:01	22:15
佐倉市	18:15 0:21	18:36	19:30
東金市	→	20:01	21:45
習志野市	17:44	18:09	19:30
柏市	14:10	17:02	19:30
市原市	16:45	→	19:30
八千代市	17:02	18:15	19:30
我孫子市	14:01	16:45	19:50
鎌ケ谷市	14:30	18:09	19:30
四街道市	18:15 0:21	18:36	19:30
八街市	→	20:01	21:45
印西市	14:21	17:44	19:50
白井市	17:17	17:44	19:30
山武市	20:01	20:27	0:30
大網白里市	→	20:01	22:15
九十九里町	20:01	20:37	0:30
白子町	20:01	23:06 0:34	23:40
長柄町	20:01	22:28 0:12	22:40

日付	出来事
8月15日	新たに死者3人（千葉市2人、いすみ市1人）を発表 ※　計8人（千葉市3人、市川市1人、佐倉市2人、八千代市1人、いすみ市1人）
	第４回千葉県災害対策本部会議 （死者8人　住家被害　全壊1棟　半壊23棟　一部損壊49棟　床上597棟　床下490棟）
	帰宅困難者向け一時滞在施設（県有施設）を閉鎖
	知事の現地視察（佐倉市）
	東京電力管内　停電解消
	国TEC-FORCEによる支援（以降、9月4日まで）
8月16日	「千葉県災害時交通マネジメント検討会」（第１回）
	新たに死者2人（千葉市1人、柏市1人）を発表 ※　計10人（千葉市4人、市川市1人、佐倉市2人、柏市1人、八千代市1人、いすみ市1人）
8月17日	圏央道と千葉東金道路の一部区間の通行止めが解除。高速道路の通行止めはすべて解除
	第５回千葉県災害対策本部会議 （死者10人　住家被害　全壊2棟　半壊12棟　一部損壊43棟　床上1,000棟　床下1,007棟）
	千葉県災害ボランティアセンター設置
	JR外房線一部不通。代行バス（誉田～土気間、大網～本納間、蘇我～茂原間）運行開始
8月18日	「千葉県道路の被災車両に対する円滑な対応に関するプロジェクト会議」（第１回） 路上の被災車両台数（国43台、県93台、千葉市（幹線）約200台、市町村267台）
	知事の現地視察（大網白里市）
	令和８年８月千葉豪雨に関する関係閣僚会議（第１回） （第11回令和８年熊本地震非常災害対策本部会議と同時開催）
	「千葉県災害時交通マネジメント検討会」（第２回）
	JR外房線（大網～本納）運転再開
	新たに死者3人（千葉市2人、市原市1人）を発表 ※　計13人（千葉市6人、市川市1人、佐倉市2人、柏市1人、市原市1人、八千代市1人、いすみ市1人 ）
8月19日	NEXCO東日本の協力による路面清掃支援（大網白里市、習志野市など9月3日まで）
	千葉市：幹線道路の被災車両の撤去完了
8月20日	知事の現地視察（千葉市）
	千葉県：被災車両の撤去完了
	千葉県・千葉市が旧千葉外房有料道路（生実本納線）の緊急復旧を国土交通省に要請
8月21日	防災担当大臣の現地視察（千葉市等）
	旧千葉外房有料道路（生実本納線）（大木戸IC～茂原市大沢）規制解除
	旧千葉外房有料道路（生実本納線）（辺田十字路～大木戸 IC）TEC-FORCEによる緊急復旧支援の実施
	第６回千葉県災害対策本部会議 （死者13人　住家被害　全壊3棟　半壊151棟　一部損壊63棟　床上1,938棟　床下1,681棟）
	「千葉県道路の被災車両に対する円滑な対応に関するプロジェクト会議」（第２回） 路上の被災車両台数（国0台、県0台、千葉市（幹線）0台、市町村123台）
8月22日	千葉市：被災車両の撤去完了
8月23日	JR外房線（誉田～大網）運転再開
8月25日	「千葉県災害時交通マネジメント検討会」（第３回）
	第７回千葉県災害対策本部会議 （死者13人　住家被害　全壊3棟　半壊302棟　一部損壊87棟　床上2,218棟　床下1,987棟）
8月26日	旧千葉外房有料道路（生実本納線）（辺田十字路～誉田IC）規制解除
8月27日	内閣府及び国交省に対し、千葉県知事、千葉市長、佐倉市長、大網白里市長が要望活動を実施 （被災者の生活再建と地域の復旧への支援、今後の防災・減災対策の抜本的な強化）
	内閣府から「激甚災害」指定の見込みとの発表（農林水産業）
	「千葉県道路の被災車両に対する円滑な対応に関するプロジェクト会議」（第３回） 路上の被災車両台数（国0台、県0台、千葉市（幹線）0台、市町村2台）
8月28日	自由民主党本部で開催された「災害対策特別委員会」に千葉県知事・千葉市長出席
9月1日	報道発表【令和8年8月千葉豪雨に伴う被災状況の写真提供のお願い】
9月3日	国土交通大臣の現地視察
	第８回千葉県災害対策本部会議を開催及び災害復旧支援体制に移行 （死者13人　住家被害　全壊12棟　半壊2,183棟　一部損壊272棟　床上1,052棟、床下2,701棟）
	旧千葉外房有料道路（生実本納線）（誉田IC～大木戸IC）規制解除　　全線解除
9月4日	旧千葉外房有料道路（生実本納線）（辺田十字路～大木戸 IC）TEC-FORCEによる緊急復旧支援の完了